

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1,670例あり、本年の累積報告数は102,613例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(70歳代女性)あり、無症状でした。本年の累積報告数は4例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代女性)ありました。本年の累積報告数は16例となりました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が1例(70歳代男性)あり、症状はDIC等、感染経路は飛沫・飛沫核感染でした。本年の累積報告数は4例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(10歳未満男性)あり、症状は菌血症等でした。本年の累積報告数は11例となりました。
- 梅毒の報告が1例(20歳代女性)あり、症状は梅毒性バラ疹でした。本年の累積報告数は42例となりました。
- 咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は0.65と少ないものの、前週より過去5年平均を上回っています。行政区別に見ると、右京区が前週2.40、今週3.60と比較的高く、今後の動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市では、第22週に腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、年間累積は4例となりました。本感染症の主な症状は腹痛、水様性下痢、血便等で嘔吐や発熱を伴うこともあります。重篤な例ではベロ毒素が引き起こす血小板減少、溶血性貧血、急性腎障害から溶血性尿毒症症候群(HUS)に至り、脳症を併発するなどして死亡する場合があります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 1例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 95例(肺結核 45例, その他結核 24例, 潜在性結核感染者 26例)うち喀痰塗抹陽性 17例】
- 新型コロナウイルス感染症 1,670例【1月以降の累積報告数102,613例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 16例】
- 五類:劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 11例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 42例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

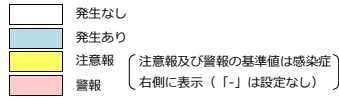
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4. 21	181
	② 咽頭結膜熱	0. 65	28
	③ RSウイルス感染症	0. 40	17
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 40	17
	⑤ 突発性発しん	0. 26	11
眼科	流行性角結膜炎	0. 20	2

【次ページ以降の主な内容】

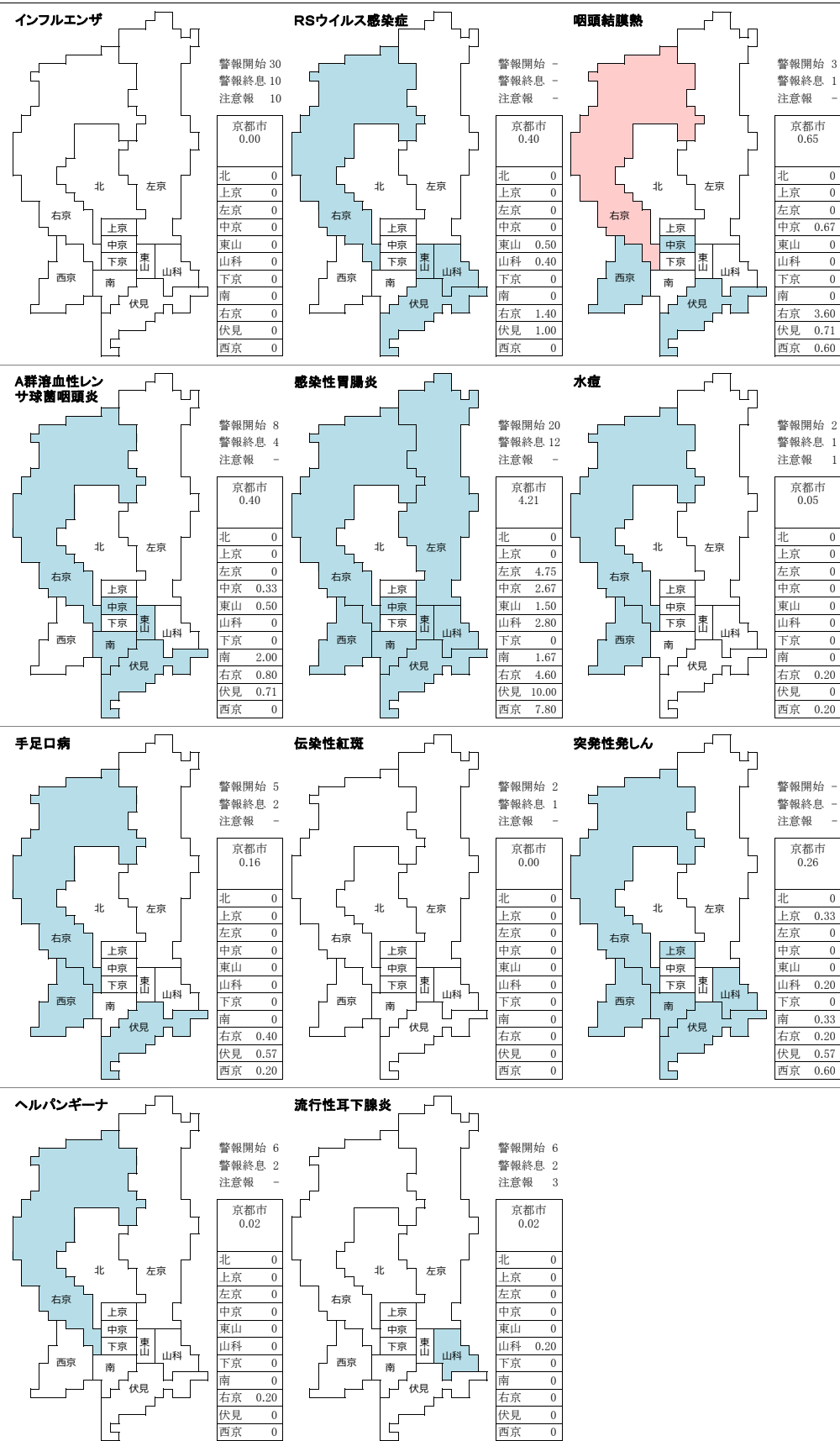
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2022年6月8日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第22週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第22週(5月30日～6月5日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市では、第22週に腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、年間累積は4例となりました。本感染症は病原性大腸菌のうち、ベロ毒素を産生する腸管出血性大腸菌の感染によって起こり、主な症状は腹痛、水様性下痢、血便等で嘔吐や発熱を伴うこともあります。重篤な例ではベロ毒素が引き起こす血小板減少、溶血性貧血、急性腎障害から溶血性尿毒症症候群(HUS)に至り、脳症を併発するなどして死亡する場合があります。

感染症法の分類では3類感染症の全数把握感染症に定められており、「診断した医師は直ちに届出を行わなければならない。」とされています。届出の内容により、保健所では積極的疫学調査を行い、また、衛生環境研究所では菌の分離・同定、血清型別、毒素型別を検査しています。

京都市の過去20年間の年間報告数推移を見ると、年によってばらつきはあるものの、2003年に101例、2009年に93例の大きなピークがありました。2013年以降は22例から多くても46例で突出したピークは見られません(図1)。感染原因の一つは肉類の生食とされており、食中毒の発生もあったことから、厚労省では2011年10月に生食用食肉の規格基準を見直し、さらに牛肝臓内部からの原因菌検出を受けて、2012年7月に牛生レバーの生食用販売・提供を禁止しました。また漬物による食中毒集団発生の報告があったことから、2012年10月に漬物の衛生規範を改正しました。これらの規制が実施されたことが発生減少に寄与していると考えられます。全国では2007年にピークがあるものの突出しているわけではなく、期間を通じて横ばい、最近10年程は微減傾向です(図1)。

2012年以降の京都市の報告数を月別にみると、6月から9月にかけての夏季に多く発生していることがわかります。本年は今のところ4例に留まっていますが、流行期に入ったことから今後注意が必要です(図2)。

過去10年間に検査で判明したO血清型の割合は、O157が67%、次いでO26が9%、O103が7%、O145が4%で、これらの血清型で9割近くを占めています(図3)。

腸管出血性大腸菌感染症の感染経路は、主に菌で汚染された飲食物が口から入る経口感染(食中毒)と、患者の便などに由来する菌が、複数の人の手に触れるドアノブやタオルなどに付着し、それが間接的に口に入る接触感染があります。菌が少量(100個程度)であっても感染が成立するため、人から食材の汚染や人から人への感染が拡大しやすいと言えます。

食中毒の予防策は、菌を「付けない」、「増やさない」、「やっつける」が基本です。原因となる食材は肉に限らず、生鮮野菜やそう菜の場合もあります。特に肉類については生食せず十分加熱すること、生野菜やそう菜については適切な洗浄や温度管理に注意して菌の増殖を抑えましょう。人から人への感染を防ぐためにも、トイレの後や食べ物を触る前には石けんでしっかりと手を洗いましょう。また、保育施設などでの簡易プールの水を介して感染が広がる可能性もあるため、衛生管理を十分に行いましょう。

図1 京都市及び全国の報告数(2002～2021年)

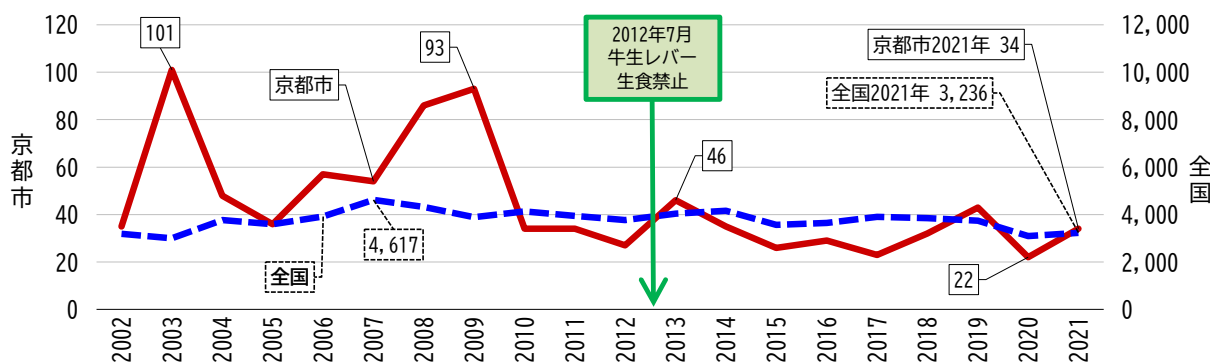


図2 京都市の月別報告数 (2012～2021年累積) (n=317)

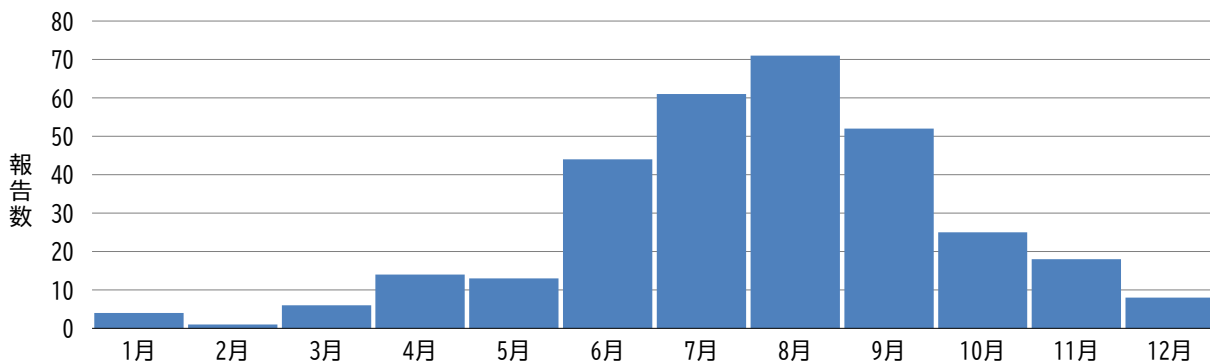
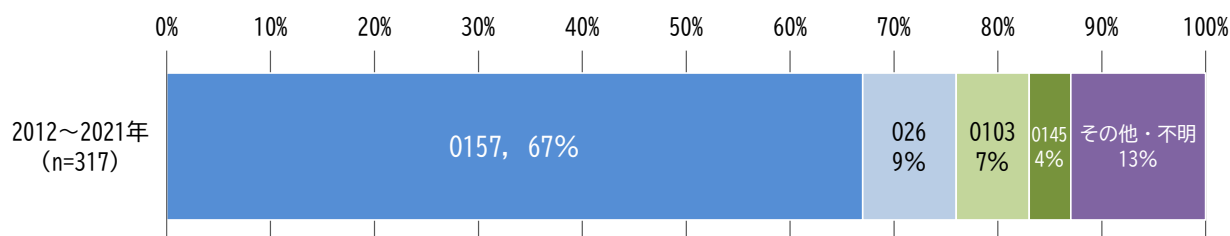


図3 京都市の腸管出血性大腸菌O血清型検出割合



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第22週

疾病,行政区別報告数

2022年5月30日～2022年6月5日

データ入手日:2022年6月8日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	2	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	2	-	-	14	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	6	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	7	18	4	23	1	2	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	7	5	5	70	-	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	3	-	39	1	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	17	28	17	181	2	7	-	11	1	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	-	4.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	0.67	0.33	2.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	0.50	1.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.40	-	-	2.80	-	-	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	2.00	1.67	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1.40	3.60	0.80	4.60	0.20	0.40	-	0.20	0.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	1.00	0.71	0.71	10.00	-	0.57	-	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	0.60	-	7.80	0.20	0.20	-	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.40	0.65	0.40	4.21	0.05	0.16	-	0.26	0.02	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第22週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年5月30日～2022年6月5日

データ入手日:2022年6月8日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	17	1	2	5	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		28	-	6	14	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	-	-	3	-	2	2	-	3	1	-	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		181	1	16	36	20	24	20	9	12	7	6	3	13	3	11	-	-	-	-	-	-	-
水痘		2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		7	-	1	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		11	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.40	0.02	0.05	0.12	0.19	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.65	-	0.14	0.33	0.12	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.40	-	-	0.07	-	0.05	0.05	-	0.07	0.02	-	0.02	0.05	-	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		4.21	0.02	0.37	0.84	0.47	0.56	0.47	0.21	0.28	0.16	0.14	0.07	0.30	0.07	0.26	-	-	-	-	-	-
水痘		0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.16	-	0.02	0.07	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.26	-	0.07	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.10	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第22週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年6月8日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	-	1	9	10	17
咽頭結膜熱	5	1	6	7	28	28
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	8	12	11	12	17
感染性胃腸炎	127	94	139	169	189	181
水痘	6	4	2	5	4	2
手足口病	2	2	1	3	2	7
伝染性紅斑	-	2	1	1	1	-
突発性発しん	8	7	10	9	14	11
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	1	1
流行性耳下腺炎	1	1	2	-	-	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	2	1	1	1	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	177	121	175	216	262	267

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.02	-	0.02	0.21	0.23	0.40
咽頭結膜熱	0.12	0.02	0.14	0.16	0.65	0.65
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.19	0.28	0.26	0.28	0.40
感染性胃腸炎	2.95	2.19	3.23	3.93	4.40	4.21
水痘	0.14	0.09	0.05	0.12	0.09	0.05
手足口病	0.05	0.05	0.02	0.07	0.05	0.16
伝染性紅斑	-	0.05	0.02	0.02	0.02	-
突発性発しん	0.19	0.16	0.23	0.21	0.33	0.26
ヘルパンギーナ	0.05	-	-	0.02	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.02	0.05	-	-	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	4.27	2.97	4.15	5.10	6.17	6.36

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。